

SHIRAKOBATO

# しろこぼと



2001. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 206

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 400種達成！ 我がライフリストに想う

榎本秀和（鴻巣市）

以前より編集子は、榎本氏に「ライフリストが400種をオーバーしたらその喜びを書いてほしい」と依頼していた。榎本氏のライフリストの場合、増やすことが目的ではなく、結果であることを充分承知していたからである。

『日本百名山』を著した深田久弥も「百の頂きに百の喜びあり」と言っている。私たちも400の喜びを共有させてもらうことにしよう。

## ◇はじめに

一口に「バードウォッチング」といっても、その楽しみ方や関心の向く領域は人それぞれ。姿を愛でたり、行動を観察したり、あるいは絵に描いたり写真を撮ったり、はたまた俳句を詠んだり、社会の良識から逸脱しない限りは、いろいろな楽しみ方があってよい。

支部報『しらこぼと』115号(1993年11月号)に、私は「私のバードライフ これだけはこだわりたい!」という文章を書いた。ライフリスト300種達成にちなみ、バードウォッチングにおいて自分自身を律する「こだわり」を述べたものだが、今回もその「こだわり」を大切にしながら、我がバードライフを語ってみたい。

## ◇ライフリストとは

さて、バードウォッチングの楽しみのひとつとして野鳥の記録をつけるということもある。その日に出た鳥を手帳に書き留めることなどは、多くの人がやっていると思う。そうこうするうちに、今度は「今まで何種類の鳥を見たか」に関心が向いてきてリストを作ってみたりする。自分がこれまで見てきた野鳥をリストアップしたもの、それがいわゆるライフリストであり、ライフリストを踏まえて「〇〇種見た」とか「1種増えた」といった会話が交わされるわけである。

## ◇300種到達のころ

我がライフリストが300種目を記録したのは1992年3月19日。宮城県金華山の南海域を

航行する苫小牧行きフェリーの船上から、ウミガラスを観察したときのことである。このときまで、私は北海道にも西日本にも探鳥に出かけたことがなく（厳密に言えば、沖縄本島には一度行ったことがあったが）、初めての北海道探鳥に赴く途中であった。「50歳までに400種達成!」という目標を定めたのもこのころである。

## ◇砂崎にて

今年1月13日の午後、私は北海道茅部郡砂原町の砂崎にいた。函館の真北40kmほどに位置する平坦な岬で、数シーズンにわたってシロハヤブサが複数越冬して有名になった場所である。今回この地を訪れたのは、もちろんシロハヤブサが目当てなわけで、我がライフリストの400種目をシロハヤブサで飾りたいと考えたからである。

言うまでもないが、野鳥に貴賤(?)はない。どんな鳥に出会うかということは、人との出会いとまったく同じく「縁があればこそ…」のことであって、とうてい人智の及ぶものではない。しかしである。そうとわかっていても、我がバードライフの節目の野鳥はできれば憧れの鳥であってほしい。というわけで、はるばるここまでやって来たのであった。

前置きが長くなった。結果を述べると、この日、私は完全にシロハヤブサに振られてしまった。そもそも今シーズンはシロハヤブサは渡来しなかったようなのである。

さてそれでは、400種達成がお預けになっ

表① 日本国内観察種数

2001(平成13)年1月13日現在

埼玉県内での観察あり	182種	45.50%
他の都道府県のみ	218種	54.50%
内訳 関東地方の内	112種	28.00%
その他の地方	95種	23.75%
舩倉島のみ	11種	2.75%
合 計	400種	100.00%

てしまったかというとは実はそうではない。午後3時30分、マイナス10℃の雪原で13羽のツメナガホオジロの群れに遭遇。まったく予期しなかった鳥であっさり400種を達成してしまった。想定していたよりもはるかに早く、43歳11か月と17日目であった(写真)。

◇400種の鳥たち

これまで観察してきた400種の野鳥たちを、観察地別に数えてみた(表①)。

埼玉県内で観察したことがある野鳥。これらは日常の探鳥の積み重ねの結果であり、私がいちばん重視しているカテゴリーである。

埼玉県内で観察したことがない鳥、つまり他の都道府県でしか見たことのない鳥については、さらに三つに細分した。

関東地方の内というのは、埼玉を除く関東1都5県の内という意味で、その沿岸海上や東京都下である三宅島も含む(伊豆諸島の他の島々には行ったことがない)。

その他の地方というのは、前記以外の日本国内ということで、東京都下ではあるが小笠原諸島はこちらのカテゴリーに入れることにする。なお、今もって近畿・中国・四国で探鳥したことはない。

舩倉島(石川県輪島市)はあえて単独のカテゴリーとした。能登半島の真北に位置するこの島は、渡り鳥が羽を休めるために立ち寄る島であり、この島での野鳥観察は本来とは異なる環境下でのイレギュラーな遭遇である。いわゆる珍鳥に安易に出会ってしまうこともあるわけで、そういう意味において、舩倉島の依存度(?)の低いほうがライフリストの質は高いと考えている。

私は、1988-98年の間に春秋合わせて10回、舩倉島を訪れた。粟島(新潟県)や飛鳥(山形



県)には行ったことがない。

各カテゴリーは、私の基準では今述べてきた順に優先順位が低くなる。表では、ニューバードのときは他県でも、その後関東地方や埼玉県内で観察すれば、より順位の高いカテゴリーにカウントしている。

◇年に何種見る?

ライフリストとは別に、私はその年の1月から12月までの年間観察野鳥リストというものここ数年つけている(表②)。

毎年元旦を起点として、スズメからムクドリから、その年のニューバードとしてチェックしていくのだが、「あっ、まだコゲラを見てない…」などと、ビギナーに戻って新鮮なバードウォッチングを楽しむことができる。

◇おわりに

意識するしないにかかわらず、バードウォッチャーはみんな自分のライフリストを持っている。初めて探鳥に参加したそのときに、リストの最初の1行目が始まるからだ。

私は数字にこだわるつもりはない。珍鳥の追っかけに傾くことなく、日常の探鳥を積み上げていくだけのことである。憧れのある鳥にだって、いつか出会う日が来るだろう。

表② 年間観察種数

1998(平成10)	214種(うち埼玉県内84種)
1999( // 11)	208種( // 68種)
2000( // 12)	242種( // 87種)
2001( // 13) [4月1日現在]	134種( // 68種)

# 「干潟を守る日2001」宣言

干潟を守る日2001実行委員会の呼びかけにこたえ、私たちは次のとおり宣言します。

私たちの21世紀は、干潟の保全にとっての象徴的な舞台・諫早で幕を開けました。有明海の大異変は、干潟を壊すと海がどうなるか、幾億の生命が連なる生態系のはたらきが、いかに大きく、いかに複雑で精妙なものであったかを、鮮明に教えてくれました。

諫早湾干拓事業のアセスメントは、「生物相の生息域や産卵場を一部消滅させるが、有明海の自然環境に著しい影響を及ぼさず、影響は計画地の近傍に限られ、諫早湾及び周辺海域に及ぼす影響は許容しうる」と評価しましたが、この判断は完全に誤っていたのです。

しかし、今日の事態を予測していた人も少なくありませんでした。諫早湾を「有明海の子宮」と見ていた有明の漁民たち、海を見つめてきた心ある研究者と市民たち、そして彼らとともに30年をたたかって昨年7月に道半ばにして急逝した諫早干潟緊急救済本部代表の山下弘文さんです。

今こそ、「判断の誤り」を認めて干潟事業を中止し、干潟の生き物を皆殺しにしたことを反省しつつ、壊した生態系を元に戻す努力を始めなければなりません。干潟の再生と有明海の復活が、どんなに大変なことか、どれだけ時間がかかるのか、誰にもわかりません。

確かなことは、生態系の復元には自然の力と生命の時間を待つ他なく、人間が出来る限りの手助けをしながら環境復元をはかる、この未曾有の挑戦の中にこそ、希望があるということなのです。

4年前の4月14日、諫早湾を閉め切った『ギロチン』の衝撃は、理不尽な公共事業への大きな風を、全国各地で巻き起こしました。

伊勢湾・藤前干潟がゴミ埋め立てから守られ、名古屋市のゴミ行政に画期的な転機を与えました。

四国・吉野川では「自分たちのことは自分たちで決めよう」と、住民が公共事業についての意思決定をする流れを自らつくりあげました。

東京湾・三番瀬では、もう一坪たりとも埋立は行方べきではないとする世論が、公共事業の必要性和妥当性を問う厳しい判断を迫っています。

沖縄・泡瀬干潟では、基地負担の見返り開発で急速に失われた海草藻場（うみくさ・もば）のあるすばらしい干潟の最後のひとつを守るたたかいが始まりました。

熊本・川辺川では、その水が注ぐ不知火海の漁民が、有明海の危機に学び、ダム反対へと結集しはじめています。

博多湾・和白干潟では、人工島着工後も、環境復元の視点からの見直しや、国設鳥獣保護区設定に向けての活動がねばり強く続けられています。

今こそ私たちは、地球のいのちと子どもたちの未来のために、

- 1, 諫早湾の水門開放を第一歩として、豊かな干潟の再生と、宝の海・有明海の復活をめざします。
- 2, 干潟のはたらきや、いのちとの出会いのすばらしさを広く伝え、残された干潟を守り、失われた干潟を復元する努力をつよめます。
- 3, ラムサール条約の理念にもとづいて、干潟や浅海域などの湿地生態系を保全し、その特質を活かしたワイズユースをはかるため、新たな公共事業のあり方や、森から海までの環境保全のしくみを提唱します。

2001年4月8日

日本野鳥の会埼玉県支部役員会

## らくちん 編隊飛行

ガンやハクチョウがよくきれいなV字型の編隊飛行をしているのをみかける。またカワウのような大型のトリも同様な編隊を組んで飛ぶので、それをガンと間違えることもある。

実はあの編隊飛行には驚くべきエネルギー節約があり、先頭のリーダーを除く後続のトリたちはかなりの「らくちん飛行」をしているのだ。先行のトリの翼の上下動によって起こされる空気の渦が後ろへ押し出され、つまり「後流」が発生する。その「後流」に乗っ

て自分のエネルギーを消耗することなく楽々に飛ぶというのだ。

アメリカの鳥類学者の研究によるとV字編隊で飛ぶと飛翔距離が71%も伸びた、という。単独飛行では100マイルだったものが編隊飛行では171マイルにも伸びたことになる。

軍用機も同じようにV字編隊を組むのはトリから学んだことだろうが、ジェット機の場合は強烈な後流をまともに受けると危険があるので必ず高度差をとり、うまく後流に乗るのが省エネの秘訣と言われている。

先頭のリーダーはどうなるのだろうか？

〈松井昭吾〉

## シラコバト

四分一 保雄（羽生市）

シラコバトは悲しい鳥である。

牛舎、豚舎、鶏舎などの要するに人間が飼っている家畜小屋のまわりを棲み家している鳥なのである。家畜小屋に踏み込んで家畜の餌を頂戴して生きている。もちろん野原や人家の庭でも餌をとってはいるが、圧倒的に家畜小屋で餌をとっている姿を多く見かける。

シラコバトは何といっても弱虫なのだ。

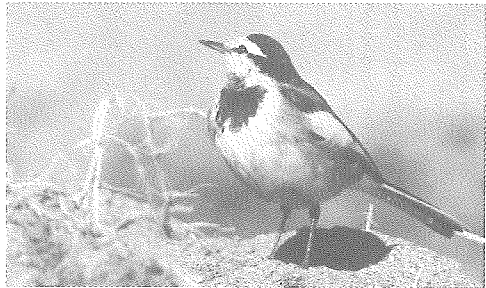
我が家の近くに一番いのシラコバトが住んでいて、ある家の裏庭を塒としている。2000年秋の早朝、いつものように我がシラコバト一家に会いに行くと、ヒヨドリが沢山集まって、ヒーヨ、ヒーヨと騒ぎたて、さかんにシラコバトに攻撃を仕掛けていたのではないかと。シラコバトは、それから数日のうちにその姿を消し、2001年になって再び毎朝姿を見せるようになった。何処を塒しているのか今のところ分からないが、ヒヨドリに追いとばされる弱虫なのだ。

またある時、スズメに追いとばされた我がシラコバトを見たこともある。近所のテレビのアンテナに止まっているところを攻撃に遭い、スズメに追われながら、あちらの屋根、こちらのアンテナと逃げながら、とうとう、遠くのほうまで追いとばされてしまった。

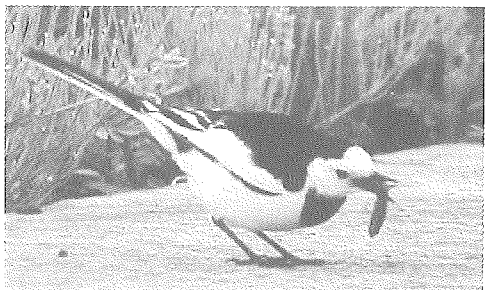
育ちが良いと言ってしまうとそうなのかもしれない。

## Q どこが違うの？

## ハクセキレイ 3 亜種



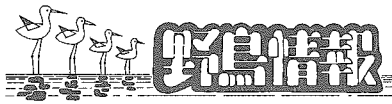
ハクセキレイ（外園たけの）



ホオジロハクセキレイ（海老原美夫）



タイワンハクセキレイ（海老原美夫）



## 野鳥情報

さいたま市大間木 ◇昨年我家のハヤトウリに来た野鳥です。ジョウビタキ♂♀、メジロ、ウグイス、シジュウカラ、ヒヨドリ、コゲラ、スズメ、オナガ等。10月下旬から12月中旬までハヤトウリが実ります。食べても美味しい、鳥も寄ってきますよ(山原忠雄)。

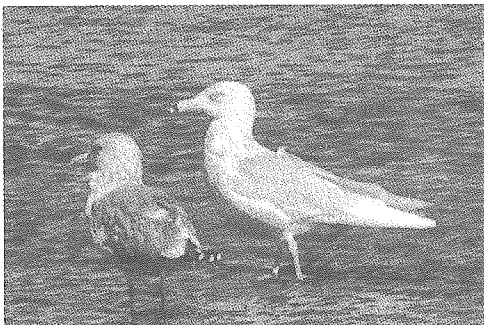
さいたま市秋ヶ瀬 3月10日午前9時~11時、秋ヶ瀬公園でアカハラ4羽、シロハラ5羽、シメ2羽、ベニマシコ♀1羽、他計18種(後藤康夫、北村隆、澤井清)。

戸田市荒川 ◇2月7日、戸田橋付近の河川敷でコミミズク1羽。2月19日、カンムリカイツブリ1羽、カモメ1羽(高橋達也)。

戸田市道満彩湖 ◇2月23日、クイナ1羽(高橋達也)。◇3月10日午前11時15分~午後1時15分。ミコアイサ♂♀、シベリアジュリン1羽、オオジュリン10数羽、オオバン2羽、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ他計18種。オオジュリンはすでに夏羽に近いものがいた。カンムリカイツブリも同様(後藤康夫、北村隆、澤井清)。

さいたま市膝子 ◇2月19日午後2時頃、林縁でカシラダカの群れにアトリ4羽が混じっていた(鈴木紀雄)。

さいたま市大谷 ◇2月20日午後2時30分頃、環境広場で越冬したらしいクサシギ2羽、イカルチドリ1羽、タシギ8羽。他にツグミ、タヒバリなど。3月9日午後1時頃、イカルチドリだとばかり思い込んでいたら



シロカモメ 本田修二

「ピピピ」とよく鳴いて飛ぶので、確認したら黄色のアイリングがくっきり、もうコチドリが来ていました(鈴木紀雄)。

さいたま市二つ宮 ◇2月21日、農業構造改良区圃場整備記念碑付近の電線でカワラヒワ約200羽の群れ(藤野富代)。

さいたま市日進町1丁目 ◇3月6日、7日、21日、ツミ1羽(森本國夫)。◇3月11日、ミヤマホオジロ♀1羽、林縁草地で鳴きながら採餌(浅見健一)。

さいたま市三橋5丁目 ◇3月11日、鴨川第一調整池でツバメ1羽、水面すれすれに何度も飛行。ホシハジロ♀4羽、オナガガモの群れの中で、浅い水面をさかんに潜水(浅見健一)。

さいたま市三橋3丁目 ◇3月11日、ハヤブサ1羽、菊田よりムクドリほどの獲物を下げて飛び立ち、途中カラスにモビングされ、高度をとり、深い羽ばたきで重そうに、約800m先の陸自通信鉄塔頂上に降りた。隣の遊水池のユリカモメ約20羽一斉に飛び立つもカモたちは、鳴くのみで飛び上がらず(浅見健一)。

さいたま市丸ヶ崎 ◇3月17日、農家の庭でウグイスのさえずり(藤原真理)。

川口市差間 ◇3月初め頃~3月16日、遊水池でオオセグロカモメ成鳥1羽、毎日早朝6時半頃から8時半頃まで、魚の浮き上がったのを食べてました。奥の方のアシ原でオオタカ幼鳥1羽、チュウヒ成鳥1羽(藤野富代)。

志木市 ◇3月4日、いろは橋上空でチョウゲンボウ1羽(藤原寛治)。◇3月6日、柳瀬川の中州でオシドリ♀1羽、オカヨシガモ♂♀、トモエガモ♂1羽(杉原みつ江)。

上尾市畦吉 ◇3月10日、ツバメ1羽。今年初認(松井昭吾)。

越谷市大吉 ◇2月3日、午前11時30分、古利根川でセグロカモメの群れの中に初列風切羽の白いカモメ(左写真の右側)を見つけた。嘴の色からシロカモメの若鳥と思われる。その後、数回足を運んだが、再度確認する事はできなかった(本田修二)。

蓮田市黒浜 ◇2月21日午後2時頃、国立東

埼玉病院裏手でシロハラ、マヒワ、ルリビ  
タキ♀、ピンズイ2羽、ミヤマホオジロ♂  
2羽。3月8日午前9時頃、ミヤマホオジ  
ロ♂2羽、カシラダカに混じって枯葉のつ  
もる地面で採餌していた（鈴木紀雄）。

行田市北河原 ◇2月24日、落合橋付近の福  
川でカモ類約300羽。カルガモ、マガモ、  
コガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホシ  
ハジロ、カイツブリ各々多数。カワウ1羽  
（四分一保雄）。

行田市小針 ◇3月17日、ツバメ1羽初認(中  
里、逸見、玉井)。

滑川町森林公園 ◇2月15日、いつもトラツ  
グミの出るふれあい広場を中心にミヤマホ  
オジロ多数。かなりの個体数と思った。他  
にベニマシコ♀1羽、トラツグミ（小林ま  
すみ他1名）。3月7日午後4時前、ヤツ  
ガシラ、やっと出現してくれた。飛んだ時  
の羽の白斑が印象的だった（鈴木紀雄）。  
◇3月8日、彫刻広場の西側でヤツガシラ  
1羽。発見時は、一瞬冠羽を立てているの  
を見、フィールドスコープでも観察できて  
大感激！（小林ますみ他1名）。

東松山市都幾川リバーサイド公園 ◇3月3  
日午後2時30分～4時、ベニマシコ♂1羽  
♀2羽、パン1羽、シロハラ他計13種（後  
藤康夫、北村隆、澤井清）。

坂戸市西坂戸 ◇3月6日午前10時25分、自  
宅の庭でウグイス初鳴き。「ホーホケキョ  
ケキョ」と20分ほど美声を聞かせてくれた。  
3月8日午前11時45分、自宅部屋の窓から  
窓下の川の土手にアリスイ1羽。午後1時  
までに他にカワセミ♀1羽、ジョウビタキ  
♀1羽、ハクセキレイ1羽、アオジ♂2羽、  
ツグミ2羽、シロハラ1羽、キジ♂1羽が  
見られた（増尾隆・節子）。

「野鳥情報」欄への掲載基準は特に決まっていますが、①埼玉県内で珍しい、数がすくない  
②その地域で珍しい ③季節を感じる情報 ④興味を引く行動 は載せるようにしています。反  
対に、①種が同定できない情報 ②明らかに疑問がある情報 ③猛禽類の繁殖情報 などは、掲  
載をひかえています。送られてきた情報は努めて多く載せるようにしていますが、紙面の都合、  
重複などで割愛することもあります。

今月の表紙の写真：チュウシャクシギ（チドリ目シギ科ダイシャクシギ属）  
撮影：外園たけの（春日部市）



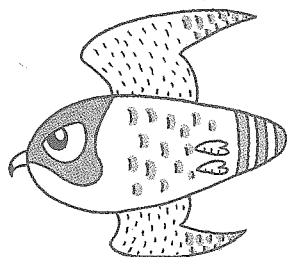
ヤツガシラ 2月18日 森林公園（手塚正義）

秩父市羊山公園 ◇3月10日、アオゲラ、マ  
ヒワの群れ、カシラダカ、ホオジロ、イカ  
ル、シメ、ウグイス、エナガ、シジュウカ  
ラ、ガビチョウ。◇3月11日、コイカル、  
アオゲラ、シロハラ、アトリ、ホオジロ、  
カシラダカ、シジュウカラ、ベニマシコ♂、  
キセキレイ、エナガ、ルリビタキ♀、カワ  
ラヒワ、コゲラ、シメ、ツグミ、マヒワ、  
ガビチョウ。◇3月15日、アカゲラ2羽、  
シメ、アトリ多数、マヒワ多数、ホオジロ、  
シロハラ、コゲラ、カシラダカ、カワラヒ  
ワ、ベニマシコ、ツグミ、アオジ。◇3月  
20日、ガビチョウ2羽、シメ、アトリ、マ  
ヒワ、ベニマシコ♂♀、トラツグミ鳴く、  
ホオジロ、アオジ、シジュウカラ、コゲラ。  
3月21日、姿の池でカワウ5羽（山岸昭治）。

熊谷市万吉 ◇3月18日朝、ウグイスが家の  
裏でさえずった。さえずりの出前サービ  
スを受けたのは初めて。3月20日、ツバメ初  
認（森本國夫）。

嵐山町都幾川 ◇3月20日午前8時30分～10  
時30分、二瀬橋～槻川橋間でクイナ2羽、  
カワセミ数羽、クサシギ1羽、コチドリ2  
羽今季初認、キジ♂1羽、シメ、ジョウビ  
タキ♂♀他計33種（後藤康夫・喜久子）。

# 行事あんない



(何森 要)

## 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて、「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、高(文)、立岩、永野(安)、永野(京)、高(尅)、今井、山野

見どころ：オオヨシキリに托卵しようとやってくるカッコウの姿が見られたらと思います。ユリノキの花もまだ残っているでしょう。コサメビタキも探してみましょう。初夏の里山の景観で心のクリーニング。

## さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：6月3日(日)

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、浦和美園駅行き8:30発、または東川口駅北口行き8:38発に乘車、「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、笠原、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

見どころ：鳥たちは子育てたけなわ。そろそろむし暑さも加わりうとうしい季節ですが、元気を出して探鳥に出かけましょう。カッコウの声を聞きながらコアジサシのダイビング、カルガモの親子を見ると気分爽快。

注意：調節池工事中のためヘルシーロードコースに変更の場合あり。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：島田、森本、石井(博)、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：暦の上では明日から入梅。オオヨシキリの合唱をバックに親鳥たちは子育てに追われています。流れに沿ってコアジサシの宙返り、川面に響くカッコウ、それにしばらくご無沙汰のササゴイが出てくれれば最高なのですが。

## 「しらこぼと」袋づめの会

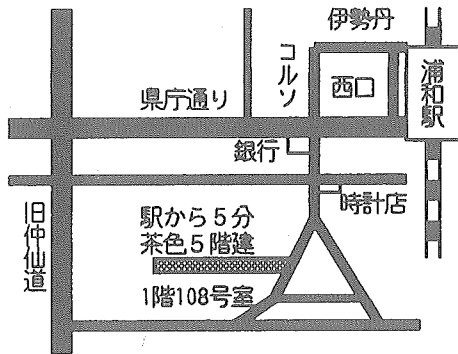
とき：6月16日(土) 1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：4月は事務局担当者が不在でも、20名以上の方が集まってくれました。ありがたいことです。今月もどうぞよろしく。



支部事務局案内図



さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月17日（日）  
 集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。  
 後援：さいたま市立浦和博物館  
 担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、清水、小菅  
 見どころ：梅雨。5月にさいたま市が発足して、見沼たんぼは三市統合のシンボルとして新しい出発を迎える。この機会に見沼たんぼの歴史と未来を考えてみよう。そんなことも頭において鳥見にお出かけください。きっと新鮮な感激がありますから。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月17日（日）  
 集合：午前9時、東武越生線川角駅前。  
 交通：東武東上線川越8：24→坂戸にて越生線乗換え8：43発。または寄居7：26→小川町乗継ぎにて坂戸乗換え。JR川越線大宮7：55→川越にて東武東上線乗換え。  
 担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久保田、志村、増尾、佐藤（壮）、吉田（時）、林（久）、池永  
 見どころ：雨季のまっただなか、晴れば暑く降ればぬかるるところ。足元が非常に悪いと思われるのでゴム長靴がおすすめ。3月の探鳥会でも観察できたヤマセミも楽しめそうです。保護の

看板を坂戸市で立ててくれました。

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

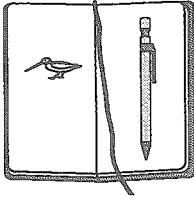
期日：6月30日（土）  
 集合：午後6時、上尾市平方八枝神社境内。  
 交通：JR大宮駅西口、東武バス8番乗り場から、平方行き17：18発にて終点下車。  
 解散：午後7時30分ごろ。  
 担当：高（文）、阿久沢、立岩、高（彪）  
 見どころ：境内の大けやきを、皆で見あげます。音もなく飛翔するアオバズクのシルエットをそっと観察しましょう。  
 注意：蚊の多いところ。防虫スプレーがあると便利です。

◆7月の行事予定

7月1日（日）北川辺町渡良瀬遊水地探鳥会

支部総会のお知らせ

日時：平成13年6月24日（日）  
 午後1時 受付開始  
 午後1時30分～2時30分 記念講演  
 午後2時30分～4時30分 総会  
 会場：さいたま市民会館うらわ（旧称：浦和市民会館）  
 交通：浦和駅西口から県庁通りを県庁に向かって西進、埼玉会館角を右折、玉蔵院境内を通りぬけた先の左側。駅から徒歩約8分。  
 記念講演：本部からの来賓による講演を予定。詳細は未定。当日ご期待ください。  
 総会議題：平成12年度事業報告と決算報告、平成13年度事業計画案と予算案、平成13年度役員の選出。  
 参加資格：支部会員であれば、どなたでも参加できます。  
 支部の規約に基づいて昨年度の支部活動を振り返り、今年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。  
 総会後には、支部事務局内での懇親会も予定しています。



# 行事報告

9月23日、24日(土、日) タカの渡り調査

ボランティア: 12人

小淵健二、北村隆、小林茂、小林ますみ、後藤康夫、佐久間博文、澤井清、品田正雄、藤野富代、細井要、森本國夫、和田康男

1月13、14日(土、日) ガン・カモ類調査

ボランティア: 24人

石井幸男、榎本秀和、海老原教子、岡安征也、岡安ゆかり、工藤洋三、小池一男、駒崎政雄、佐久間博文、田中幸男、玉井正晴、手塚正義、内藤義雄、中村治、中村榮男、長嶋宏之、橋口長和、長谷部謙二、藤掛宮子、藤掛保司、本田修二、森本國夫、渡辺泰子、和田康男

1月14日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 39人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガン マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ バン オオバン シロチドリ タグリ オオハシシギ ツルシギ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ミツユビカモメ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (60種) 風が弱い絶好の探鳥日和。北国の雪が多いためかマガンが150羽、トモエガモも150羽が入ってきた。また、アシ原の火事のためか猛禽も谷中湖近くで見られた。正午になった途端、猛烈な北風が吹いてきたため鷹見台までの遠征は中止したが、終わってみれば60種とは渡良瀬

はスゴイ。

(橋口長和)

2月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 75人 天気: 曇

カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ コジュケイ キジ クイナ バン キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 歩き出してまもなく、ふれあい橋でシメとイカルの群れに出会った。近くにはヌルデの実をついばむメジロの群れも。エドヒガンザクラ前の遊歩道で、ルリビタキのオスをほぼ全員で観察することができた。(岡安征也)

2月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、成瀬慶一、藤野富代、増尾隆、宮地豊造、松村禎夫

2月18日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 29人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ミコアイサ カワアイサ トビ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ タグリ セグロカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (43

種) まずチョウゲンボウがご挨拶。ミコアイサひ♀、カワアイサひ♀と現れて、その白さが美しいと思っていたら、セグロカモメが2羽。上流に移動すると、今度はノスリがこんには。ヨシガモが順光で美しく輝き、ここでは珍しいハジロカイツブリやスズガモの姿も。負けじとタゲリもすぐ近くに出現。フィナーレは、カモを一斉に飛び立たせてハヤブサの登場。(北川慎一)

2月18日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 62人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ オシドリ コガモ トビ オオタカ コジュケイ キジバト アオゲラ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 過去5年間で3回も中止になっている2月のここ。今回は晴れて暖かく、風もない。長沼までのオシドリコースを選び、アオジ、エナガ、オオタカと出でくれ、しかもエナガはたくみに作られた、木の又の巣まで見つけてしまった。盛り上がる中、ルリビタキ。オシドリひ♀。またまたルリビタキ。そしてアオゲラが一声とともに飛び、大満足。カモ類が少なかったが、ここでは珍しいスズメも出でくれて、何とか合格の29種。(内藤義雄)

2月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 67人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ヒドリガモ オオタカ チョウゲンボウ バン クイナ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ オオジュリン アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス (39種) 1月は大雪で中止となったが、今月は快晴。たくさん参加者で楽しい探鳥会。セキレイ類は黒、白、黄色とタヒバリが出て歓声。黄色のリボンの愛好者も多くて冬の寒さをひっくり返す。しかし、ゴミの山が多くていつかゴミ拾い探鳥会を開きたい。(楠見邦博)

2月24日(土) 東松山市 物見山

雨のため中止。

2月25日(日) 深谷市 仙元山公園

参加: 52人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ アトリ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) スタート直後にアトリの群れが出る。その後、カワセミ♀をじっくり観察し、参加者の満足度はアップ。ところが、仙元山に着いてみると、やぶがきれいに刈られていて鳥影が薄い。それでも、ルリビタキ、シロハラが出てくれて、担当者一同ほっと胸をなでおろした。(小池一男)

2月25日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 66人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハヤブサ コジュケイ セグロカモメ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 出発前に鉄塔に止まったハヤブサを全員で見ることができ、朝からの強風もすっかり忘れさせられた。しかし、ベニマシコやアカゲラも一部の人の確認にとどまり、水鳥もほとんど見られず、ちょっとさびしい思いのした探鳥会だった。(中村榮男)



カワセミ (藤原詩歩・5才)

## 連絡帳

### ●臨時理事会開催、会長交代

5月1日(火)、都内新宿区で財団法人日本野鳥の会の臨時理事会が開催され、「鳥と未来の特別審議会」の審議展開などを受けて、黒田長久会長・塚本洋三副会長・市田則孝常務理事の3名が辞任し、新たに小杉隆理事が会長に、久保田美文・古賀憲介・小林料・林吉彦・沢島武徳の5理事が常務理事に就任して、6名で常務会を構成することになりました。

辞任された3名の方々は、長年にわたり野鳥の会を指導し、日本の自然保護活動に大きな足跡を残して来られました。心からの感謝と敬意をささげます。

新会長に就任された小杉隆氏は、文部大臣もつとめた政治家ですが、長い間、野鳥の会の一会員としての活動を続けています。海外まで実態に調査に出かけるなど、カスミ網販売禁止に大きな力を発揮したことはよく知られています。混乱を収束し、新たな野鳥の会として再出発しなければならないこの時に、その指導力が期待されます。(この項の文責・海老原美夫)

### ●野鳥販売実態調査票を同封

『野鳥』と同封して送られる総合会員には『野鳥』誌の付録として、『しらこぼと』のみ送られる支部型会員には『しらこぼと』の付録として、「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2001」の調査用紙を同封しました。

これは、野鳥輸入の禁止と違法飼養の根絶を目指して、野鳥の会の自然保護センターと全国野鳥密猟対策連絡会(京都市)が共同で実施するものです。当然ですが、できる会員だけがやればよい任意の調査です。

調査にあたっては、野鳥の会の会員だからと

いって、普通の市民以上の調査権限や法的保護は一切ないこと、正規に輸入された野鳥、カスミ網以外の網や鳥もちなど捕獲用具の販売自体は、現行法規では違法ではないことを認識して、販売店とトラブルにならないよう、十分にご注意をお願いします。

### ●6月の事務局 土曜と日曜の予定

- 2日(土) 編集部会議。研究部会議。普及部会議。
- 3日(日) シラコバト見つけ隊。
- 9日(土) 7月号校正。
- 16日(土) 袋づめの会。
- 17日(日) 役員会議。

### ●会員数は

5月1日現在 2,832人です。

## 活動報告

- 4月8日(日) 役員会議(司会:玉井正晴、干潟を守る日2001宣言文・野鳥販売調査用紙同封・新年度役員候補・その他)。
- 4月13日(金)、14日(土) 5月号校正(海老原美夫、大坂幸男、桜庭勇、藤掛保司)。
- 4月15日(日) シラコバト見つけ隊会議(1日の予定を変更して)。
- 4月23日(月) 5月号発送(倉林宗太郎)。

## 編集後記

今日は連休の最終日。編集会議に来たら、何人かは対馬に行って昨日帰ってきたばかりとか。私は、さいたま市になって名前が「アグリフェスタ」に変わった農業祭に今年も出勤して、野菜を売っていたというのに。

対馬は寒くて、鳥の種類が少なく、お目当てのヤマショウビンが出なかったと聞いて、何故かホッとしています。(藤原)

しらこぼと 2001年6月号(第206号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
〒336-0012 埼玉県さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>  
編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)  
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608  
本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社